

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2021年3月11日

No.15

会社：現時点ベアの実施は厳しい状況にある

組合：組合員の頑張りはどう応えるんだ！

人件費抑制の姿勢は絶対に許さない！！

～2021 JR総連春闘 第3回交渉報告～

中央本部は本日12時00分より第3回交渉を行ない、会社は現時点における考え方を以下のとおり明らかにしました。

- ①職場では新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、貨物鉄道輸送の責務を担っていただいた。会社としても指定公共機関としての使命を果たしてきたと認識している。
- ②営業施策ではeコマース等の需要の高い分野にターゲットを絞ってセールスを行ない、ニューノーマルを見据えた営業を行なっている。またレールゲートや積替えステーションなどの施策を実施し収入を確保していく。
- ③転職が当たり前の時代になっており離職率の企業平均は15%と言われている。一方、JR貨物の若年退職率は1.8%程度ではあるが、人事制度の改善を行ない、社員の定着に結び付き、生き生きとやりがいを持つ制度となるよう議論を進めていく。
- ④賃金改善のために、一昨年の人事賃金制度改正で、助役の待遇改善や60歳まで昇給し続ける年功序列型賃金を検討し、労使合意の上で導入したものと認識している。
- ⑤2021年度事業計画では営業収益の黒字を計画している。計画達成のために頑張った組合員への還元は、業績に連動した賞与を考えている。また、会社のベアを出す根拠としては物価上昇などに対する生活向上のためと考える。
- ⑥非現業ではリモートワークを実施している。現状では現業機関の働き方は変えられないが、改めて働き方の在り方を議論していきたい。
- ⑦昇給額表による昇給の実施は行なうが、現時点ベースアップについては実施できる状況にはない。諸要求については引き続き議論していく。

中央本部は会社の考え方に対し、以下の通り強く指摘しました。

- ①ベアを実施できない具体的な根拠が示されていない。会社は何かがあればベアを実施するのか明らかにすべきである。新人事制度で給与ベースを上げたと言うが、私たちの思いからすれば十分な引き上げではない。ベア分は移行した基本給に既に含まれているという認識であるのならば、その考え方は改めるべきである。
- ②収入確保のために頑張っていくのは組合員である。自然災害など輸送障害対応の頑張りはどこで評価するのか。事業計画達成のためなら厳しくてもベアは実施するべきである。
- ③物価上昇率は下がっていると言うが、その一方で組合員の可処分所得も下がっている。業績の還元は賞与と言っているが、業績が良い時でも還元されてこなかった。
- ④2030年度までに4020億円もの設備投資を行なうのに、人件費への投資は行なわないのか。ベースアップ要求の理由は物価上昇分だけではない。我々は生活向上分も要求している。
- ⑤この間の組合員の苦勞に応えるためにはベアの実施が必要である。本日、会社から示された考え方では到底受け入れられない。再考を求める。

組合の指摘に対して会社は「縷々(るる)申し述べたが、会社の考えは現時点のものであり、引き続き回答指定日まで社内で議論し回答していく。」と回答しました。

本日以降、山場の闘いに突入します。創意工夫した職場での取り組みを要請し、中央本部は回答指定日に向けて最先頭で奮闘していくことを決意し、第3回交渉報告とします。

次回交渉(回答指定日)は3月18日(木)です。

以上